

科目名	地域営農論	教員名	矢崎 俊治	開講 コース	作物生産 花 園 芸	2年次	後 期
<p>・目的と内容</p> <p>今日、戦後の日本農業のなかで形成されてきた家族農業経営に限界が見え始めてきた。その背景には、農村人口の高齢化と後継者不足による経営継承の困難化が著しく進行したことにある。そのうえ、農地市場の需給バランスが崩れ、耕作放棄地が急速に拡大していることにある。こうした現状のもとで、一定地域を範域とした集团的・組織的営農活動の総称である地域営農の確立が強く求められている。そこで本講義では、地域営農に関する理論を整理するとともに、その実践について都府県と北海道とに分けて、事例分析を通して明らかにするように努める。</p>							
<p>・授業計画 [単位数：2 単位、授業週数：15 回]</p> <p>[後期]</p> <p>1 . 日本農業の動向と地域営農論の課題 (1) 基本動向</p> <p>2 . (2) 日本農政の特徴と問題点</p> <p>3 . (3) 地域営農論の課題</p> <p>4 . 集落営農の実態 (1) 基本的特徴</p> <p>5 . (2) 地域の特徴</p> <p>6 . 地域営農のシステム像と農業生産法人</p> <p>7 . 西日本における集落営農組織 (1) 組織</p> <p>8 . (2) 実態</p> <p>9 . (3) 課題</p> <p>10 . 東日本における生産者組織 (1) 組織</p> <p>11 . (2) 実態</p> <p>12 . (3) 課題</p> <p>13 . 北海道における拠点型法人 (1) 組織</p> <p>14 . (2) 実態</p> <p>15 . (3) 課題</p>							
<p>・講義の進め方</p> <p>上記の内容について、毎時間、講義形式で行う。特に講義毎に論点を明確にし、学生諸君との質疑応答を重視して進める。</p>							
<p>・試験と成績評価</p> <p>本講義では授業の出席確認を厳正に行い、さらに、必要に応じて、小試験、レポート提出を行い、定期試験によって総合的に評価する。</p>							
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>本講義では受講生が積極的な姿勢で授業に出席し、聴講することを望む。特に、受講生一人一人が本講義を通して「なにが、なぜ、どのようにして」というものの見方、考え方を深く学んでもらいたいからである。</p>							
<p>・使用教材</p> <p>参考書：『集落営農と農業生産法人』田代洋一著（筑波書房）2006年 『北海道農業の地帯構成と構造変動』岩崎 徹ら編著（北大図書出版会）2006年 『地域営農システム入門』永田恵十郎ら編著（農文協）1991年 『営農集団と農協』矢崎俊治著（北大図書刊行会）1990年</p>							